



畿近北の
不動産事情

【最終回】

構築も重要です。協力関係の築くことは地域関係の付加価値を生み、今後の左右することになります。

「無駄話」といわずやってみよう」という心構えが大切です。

不動産にかかわらず

私たちは自ら価値

3回に分けてお話ししてきました。人口減少してきた「北近畿の不動産事情」。最終回は地域経済のあるべき姿について希望を込めてお話しします。

商業分野において、地方への大手企業の進出を止めることはできません。しかし、「コラボレーション」に道を

を作り出し行動している存在であり、地域をどうにかしたい」という思いの強さは共通して見いだすことはできません。その力は「個」で

「北近畿のような

も「団」でも発揮されるものではない。

地方は、このままでは

も「個」で

衰退するのでは一と肌

大手との“コラボ”

も「個」で

りたい。

で感じておられる方

地域の誇りです。次の

す。これからは、地元

今後、様々な協力

も多いと思います。

上場企業を地域から育

企業と大手企業のウィン

関係を基に私は変わ

地域の経済状況を良く

てることを全体のテー

ンウインの関係構築を

れると信じていま

くすることは、不動

マと考えていただけな

目指す必要があると考

す。あるべき姿で、

産を流通する上でも

いでしょか。加えて

えます。

フアースト・ムーバ

欠かせません。

経済活性化には、既存

そして、若手世代に

ーズ・アドバンテー

地域の経済人の皆

企業が「第二創業」を

対しては「新しいこと

ジ（先行者利益）を

さんは、経済活動を

目指すことも有益で

は、それた所でしか生

手に入れることがで

通じて「資金を地域

に戻す」役割を果た

まれない」と伝えたい

ぎるのでないでし

行政と民間との関係

と

と思います。理論や縦

ようか。「中村文雄